

成願寺

季報

144

令和7年6月18日
(2025年)

目次

「生きていることこそが奇跡」屋敷智乗	1
「七百回大遠忌に参列して」黒田泰男	6
「永光寺拝登 磐山禪師七百回法要参列」川本文雄	6
山内短信	8

発行 多宝山成願寺
〒164-0012 東京都
中野区本町 2-26-6
電話 03-3372-2711

令和六年 孟蘭盆会説教

生きていることこそが奇跡

石川県永光寺住職 屋敷智乗

みなさま、本日は大変お暑い中、成願寺様の孟蘭盆会法要へのお参り、ご苦勞様でございます。先代の方丈様の頃から成願寺様にはお世話になっておりまして、お盆の法要でお話をというお声がけをいただきまして、本日は石川県からやって参りました。



石川県永光寺 住職
屋敷智乗老師

孟蘭盆会先祖まつりのお知らせ

七月十一日(金)

十時半 受付始まり

十二時半 開山・歴住諸大和尚追善供養

十三時 説教 神奈川県正観寺住職善浪裕勝老師

十四時 先祖まつり法要・檀信徒総回向

＊お盆期間中(十三日～十五日)、檀信徒各家にてお勤めする棚経に伺います。担当僧侶よりご連絡を差し上げます。今年より新たにご希望の方は、寺務所へお申し出ください。

企画展「中野区の戦後80年」のお知らせ

中野区立歴史民俗資料館二階企画展示室(江古田四丁目)において、「中野区の戦後80年」と題した企画展が行われます。当山の旧防空壕が取材を受け、写真パネルが展示されます。

【期間】六月十七日(火)～八月十六日(土)。月曜・第三日曜は休館。九時～十七時(入館は午後十六時半まで)

私が住職を勤めております永光寺は、石川県羽咋市にございます。能登半島の付け根に近いわけですが、私自身の出身は能登でございます。能登はみなさまからご心配いただいておりますとおり、元日の夕方に突如として起こった大地震で大変な被害を受けました。

現在私は、曹洞宗石川県宗務所の所長を勤めておりますが、石川県に曹洞宗のお寺が約百三十ヶ寺ございまして、そのうち能登には約七十ヶ寺ございまして、全壊のお寺が二十ヶ寺。半壊のお寺が三十一ヶ寺。全壊のお寺のうちの 하나가、みなさまもご旅行で行かれたことがあるかもしれませんが、輪島の朝市通りに能登で一番大きい蓮江寺れんかうじというお寺がございまして、そのすぐそばが火元でありましたので、蓮江寺様が全焼し、輪島の朝市通り二百三十軒がなめるように一晩中燃えさかりまして、大変な被害となったわけでございます。県内外から励ましのお言葉をいただきましたながら、なんとか少しずつ復興への歩みを進めているところでございます。

倒壊の危機であった永光寺の鐘樓堂

永光寺は山の中にございますが、成願寺様の観音

巡拝旅行で平成二十七年（二〇一五）にご参拝をいただきました。それから十年の時が経って、今度は私が成願寺様にお伺いして、能登の地震の被害についてお話しをすることになるとは夢にも思いませんでした。

永光寺は檀家が七十軒ほどの寺ですが、瑩山禪師様が開かれた由緒あるお寺で、堂伽藍が立派なんです。元日に地震が起きてから全国のみなさまにご心配をいただきましたが、幸いなことに堂伽藍には被害がございませんでした。山門の仁王様は腕が落ちてしまいました。地震で倒壊していたかもしれない建物の修復工事を行ったばかりでした。

それが実は鐘樓堂のこと、一昨年のこと、ある方より「鐘撞き堂が傾いていますね」とご指摘を受けました。この鐘樓堂は二百年ほど前に建立されたものですが、毎日見ておりましたからか、ご指摘を受けるまで気がつかなかったのです。「方丈さん、これは今直さないと大変なことになりますよ。いつ倒壊するかわからない。これは立ち入り禁止にされないと危険です」。こう言われまして、さて、困りました。修復工事をしなければなりません。檀家様は七十軒、どこもそうかと思いが

高齢化が進んでみんな年金生活です。ご寄進をお願いするにも限度がある。それでもなんとかして資金を集めなくてはなりません。そうしましたら知恵を授けてくださる方がいて、クラウドファンディングをやってみようということになったのです。みなさまご存じと思いますが、有名なところですと法隆寺様や国立科学博物館もクラウドファンディングで寄付を募って、プロジェクトに賛同してくださる全国の方々よりご支援をいただいた。これは永光寺もやっ



(上) 竣工した鐘楼
(左) 竣工法要の様子

てみようと考えまして、クラウドファンディングを企画する会社に電話を試みたのです。そうしましたら大変丁寧にアドバイスをいただいて、三百万円を目標に立ち上げましょうということになりました。

ただし、全国のみなさんが見ず知らずのお寺のために、ぽんぽんと寄付をしてくださるはずもございません。返礼品という、ご寄付いただく金額に応じたお礼を考えなければいけません。さてこれは、いったい何が良いのだろうか。ネットに紹介していただくプロジェクトの詳細や進捗も報告しなければいけない。はじめてみましたら仕事が多くて、これは私の手に負えないと途方に暮れておりましたら力を貸してください方がいました。

そうこうしているある日、突如として成願寺様より多額のご寄付をいただきました。私からご連絡をしてお願いをしたわけではございません。成願寺の方丈様、永光寺が鐘楼堂の修繕費を集めるために何かしているとお知りになられたのでしょうか。黙ってご寄付をくださいまして、私は涙がでるほどありがたく、光明がさした思いでした。

それから、檀家のみなさまからのご寄進、羽咋市からの助成金、クラウドファンディングによる全国

のみなさまからのご支援によって工事に着工することができ、令和五年（二〇二三）十一月に竣工法要を執り行うことができたのです。

この度の工事では、さまざまな縁がございました。修復工事が成っておりませんでしたら、今回の地震で間違いなく倒壊していたことと思います。改めて、成願寺様をはじめ、みなさまに心よりのお礼を申し上げます。

目連尊者のお母様

本日は孟蘭盆会（うらぼんえ）の法要です。お盆と正月が一緒に來たようだ、なんて言葉もございますように、私も日本人にとりまして大変馴染みの深い行事でございます。

私たちの仏教は、二千五百年前のインドでお釈迦様（もくれんそんじや）がお開きになりました。お釈迦様の十大弟子に目連尊者という方がおられました。目連尊者は神通力に優れた方で、遙か彼方のことも見通すことができました。ある時、尊者は思い立ちまして、亡くなったお母さんの姿を見通した。あの世のどこかで安心して過ごしているに違いない、そう思っていたことでしょう。ところが実際は、あの世でやせ細り、苦し

んでおられた。

孟蘭盆会といいますが、サンスクリット語、インドの古い言葉で「ウラバーナ」。「逆さ吊り」という意味だそうです。この言葉が中国に渡って漢字に置き換えられて「孟蘭盆」となった。

お母様は、逆さ吊りにされて食べることも飲むこともできずに苦しんでおられた。その姿をご覧になった尊者は嘆き悲しんで、お釈迦様にどうしたら母を救えるか、と相談されました。そうしましたらお釈迦様は、「雨安居の自恣の日（特別な修行期間を終えて反省し合う日）に、たくさんのお坊さん方に真心をこめた清らかな食事を供養しなさい」とおっしゃった。これは、その功德が巡り巡ることによって、やがて目連尊者のお母様にも巡り、助かることができるということなのです。

東京地方では十三日からお盆でございますね。みなさま方も、お花やお供物、お線香をお供えになって、ご先祖様をお迎えし、供養のまことを捧げていただければと思います。

ご先祖様から繋がる奇跡

先ほど、成願寺様のご開山大和尚、歴代のご住職

様方の供養のお経が上がりました。これは、成願寺にとりましての先祖供養でございます。形なきもの、旅立ったものに対して手を合わせるという行為は尊いものですが、いまがあるのは、全てご先祖様のおかげでございます。

みなさまにも私にも当然お父さんとお母さんがいるわけございまして、お父さんとお母さんにもそれぞれお父さんとお母さんがいる。そうやって、お父さん、お母さん、おじいさん、おばあさん、ひいおじいさん、ひいおばあさんと遡って参りますと、十代前で一〇二四人、二十代前で一〇四万八五七六人もの数になります。私たちは普段、自分というものを顧みることをせずに、日々に追われた生活をしているわけですが、ご先祖様のどなたかお一人でも欠けたら、私というものは今、こうしていられないわけです。みなさまは日頃からご先祖様を大切にされていることと思いますが、改めて私というものが今あることが、すごい人数のご先祖様がいらしたおかげさまということを意識していただきたいのです。

よく、信じられないことが起きた、奇跡的だった、なんてことを言う人がいますが、私から言わせていただければ、こうしてみなさんが成願寺様のお盆の法

要に元気で参列されていることが奇跡なのでございます。

みなさま、お父さん、お母さんの元にお生まれになつて、赤ちゃんの頃は全ての面倒を見ていただく生活でしたね。泣いてばかりで、発疹が出たり、熱が上がったこともあったでしょう。少し大きくなれば、転んで怪我をしたり、思いもよらない病気になることもあったかもしれません。でもご両親やまたは周りの方の支えがあつて、さまざまなことを乗り越えて本日があるわけでございます。そして、この暑い中でもお盆の法要だからと出かけてこられる気力と体力と信仰心を持つておられる。

こうした奇跡的なことを意識せず、日常のことだと、自分一人の力だと思つて何も感じていらつしやらない方が多い。そうではないのです。私も七十を過ぎてこうして仏天のご加護を得て、成願寺様の大切なお盆の法要でお話をさせていただくことができました。みなさまが、私が、本日こうして生きていられることが一番の奇跡で一番尊いことなのでございます。どうかみなさま、暑い日々が続いておりませんが、お体を大切に元気で過ごしていただけたいと思います。本日はありがとうございました。合掌

七百回大遠忌に参列して

檀信徒総代 黒田泰男

昨年十一月四日に副住職にお供して、石川県羽咋市の洞谷山永光寺様で行われた太祖瑩山紹瑾禪師七百回大遠忌法要に参列しました。

全国のご寺院様五十六名、また百人以上の檀信徒の皆様が参列され、法要は厳かに営まれました。

洞谷山永光寺は一三二二年に瑩山禪師が開創され、法堂の裏手には五老峯、伝燈院があり、如浄高祖、道元曾祖、懷獎師翁、義介先師、そして瑩山禪師が祀られています。瑩山禪師は一三二一年、輪島に總



▲慶応二年（1866）
再建の山門



◀震災により腕が落
ちてしまった仁王様



随喜寺院を代表して焼香に進み出る副住職

持寺（現・祖院）を開創されて、その後、永光寺に戻られています。令和五年十二月から四回連載の福井県龍泉寺山口正章老師ご寄稿「七百回大遠忌を迎えた大本山總持寺御開山」の中で、特に私の心に残っているのは、瑩山禪師の次のお言葉です。

常に大慈大悲に住して功德を一切衆生に回向する

能登は元日の震災、九月の豪雨災害からの復興が進められています。二〇〇七年から十三年をかけて修復された總持寺祖院も今回再び大きな被害を蒙りましたが、地盤補強などの耐震工事が行われていたことで大きな倒壊は免れたと仄聞します。十月十八日には總持寺祖院を国重要文化財に指定するよう、文化審議会の答申がなされたとお聞きます。能登被災地の復興、人々の生活の再建はまだ道半ばです。今回の總持寺祖院の重文指定が能登復興のシンボル

的出来事の一つとなれば、正に瑩山禪師のお言葉に添うものと思慮します。

石川県宗務所長として現地対策本部長を務められる永光寺ご住職屋敷智乗老師におかれては、震災・豪雨被害からの復興の中、今回の瑩山禪師七百回大遠忌の実施に際して多大なご尽力があったことご推察申し上げます。

合掌

永光寺拝登 瑩山禪師七百回法要参列

檀信徒総代 川本文雄

この度は、成願寺世話人として曹洞宗の高僧であ



上＝導師を勤める永光寺方丈様。下＝大遠忌法要終、方丈様によるご挨拶。地震のお話になると涙声で当時のお話をされました。最後に冗談を交えて御陣乗太鼓を紹介されました。



石川県指定無形文化財御陣乗太鼓の奉納



法要後、永光寺方丈様と記念撮影

る瑩山禪師の記念すべき法要に参列させて頂きました。天気にも恵まれ秋空のもと、永光寺方丈様を始め多くの僧侶の方々、また永光寺に関わりのある方々により厳かに法要が執り行われました。

永光寺は、能登半島のちょうど付け根のあたりに位置しており、元日の巨大地震の影響は幸いにも少なかったようですが、被災された方々への想いを方丈様のご挨拶から感じた次第であります。

法要後、御陣乗太鼓のお披露目があり、身近で味わう太鼓の音に圧倒されました。記念法要に参列させて頂き、本当に有り難いことであります。合掌

*写真は檀信徒総代星野寿一氏に撮影いただきました。

山内短信



◎世田谷学園校長、学監来山

去る二月十八日、曹洞禅のころを今に伝える世田谷学園中学校・高等学校（世田谷区三宿）より山本慈訓校長と最勝卓道学監、吉川文隆同窓会副会長が来山。学園は令和八年に創立百二十五周年を迎えるそうで、記念事業についてご説明いただきました。

◎本堂前の牡丹



本堂向かって右手に数株の牡丹が植えられています。

これは「ぼたん苑」でも有名な静岡県可睡斎で講師

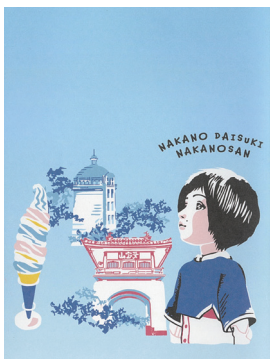
を勤められる西垣隆英師（観福寺住職）のご手配によるもので、年々、種類と株を増やして、参拝者の目を楽しませてくれています。

◎中野長者伝説、「中野本」に紹介される



八十冊以上展開する「街ラブ本」の最新作として「中野本」が株式会社 EDITORS より三月二十七日に刊行されました。「グルメや文化、歴史などを中野区の方々に届けるガイドブック」だそうで、当山に伝わる中野長者伝説が紹介されました。

◎ブックファースト文庫カバに山門イラストが載る



中野駅北口徒歩三分ほどの所に、ブックファースト中野店があります。昨年十一月に開店七周年を迎えられ、「中野大好きナカノさん」

（中野区シティプロモーションキャラクター）とのコラボブックカバーが配布され、成願寺の山門がデザインされました。